

一隅を照らす運動総本部だより No.24



一隅を照らす運動総本部ホームページアドレス
<http://ichigu.net>



平成23年1月20日

一隅を照らす運動 理事会を開催



平成23年1月20日、天台宗務庁（滋賀県大津市坂本）において一隅を照らす運動理事会が開催され、平成23年度の一隅を照らす運動の事業計画や予算を審議し、

- 平成23年度「一隅を照らす運動」通常会計歳入歳出予算 68,500,000円
- 平成23年度「一隅を照らす運動」地球救援事業特別会計歳入歳出予算 29,000,000円

が承認された。

会議の冒頭で、小堀光詮会長から「実践3つの柱である『生命(いのち)』『奉仕』『共生』を軸として具体的に活動していくことで、一隅を照らす運動が45周年という節目に向かってより一層発展していくことを期待しています」と挨拶があった。

また、谷口義久副会長（天台宗檀信徒会会長）からは「厳しい世相の中で考えることもたくさん出てきますが、熱心な取り組みを通して一隅を照らす輪を広げていきま

しょう」との挨拶があった。

今回委嘱された顧問・理事は次の通り。

【顧問】

京都教区毘沙門堂住職・叡南覺範師

【理事】

九州東教区臨濟寺住職・秦順照師

第25回全国一斉托鉢

各地の様相（中間報告）

平成22年12月1日、第25回天台宗全国一斉托鉢が行われ、12月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭募金が展開された。今回も大勢の方の協力により、平成23年2月28日現在で25教区本部66会場の実施報告があった。

全国での募金総額は10,010,195円で、これらの浄財から地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やNHKの歳末たすけあい運動などに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に4,753,111円が寄託された。



延暦寺一山

12月1日、比叡山麓坂本では半田孝淳天台座主猊下を先頭に延暦寺一山住職や天台宗務庁役職員など約100名が托鉢行脚。坂本界隈の戸別托鉢では417,591円の浄財が寄せられ、毎年恒例の托鉢を楽しみに待っている人も多かった。また、延暦寺一山寺庭婦人会の協力のもと、寺庭婦人と天台宗務庁職員が京阪坂本駅とJR比叡山坂本駅で実施した街頭募金では、合わせて49,915円の浄財が寄せられた。

滋賀教区本部

12月1日、蒲南部の正宝寺・光善寺周辺で戸別托鉢を行い、住職や檀信徒49名が各戸を訪問。寄せられた浄財76,091円を地球救援に寄託した。また、JR堅田駅では湖西部寺庭婦人会が宗務庁職員と街頭募金を実施し、12,619円の募金が集まった。

京都教区本部

12月4日、住職ら25名が参加して街頭托鉢を実施。参加者は京都市四条河原町の人混みの中、通行人に募金を呼び掛けた。また、各寺院周辺でも戸別托鉢を行い、地球救援と京都新聞社にそれぞれ187,000円を寄託。

近畿教区本部

12月4日、近畿教区仏教青年会会員9名が大坂市戎橋で街頭托鉢を実施。参加者は寒風吹き荒ぶ天候の中、ティッシュを配りながら



「一隅を照らす運動」について説明する班と、読経をしながら喜捨を受ける班に分かれて托鉢を行った。地球救援とパンニャ・メッタ協会にそれぞれ64,618円を寄託した。

兵庫教区本部

〈第2部〉12月4日に和田寺周辺で住職・檀信徒ら48名が参加して戸別托鉢を実施し、地球救援に66,700円、篠山市社協に136,000円、加東市・三田市両社協に20,000円を寄託した。



〈第3部〉12月1日に地藏院周辺で戸別托鉢を実施し71名が参加。地球救援に130,000円、加西市社協に100,000円、加古川市社協に20,000円を寄託した。

〈第4部〉12月1日に山陽電鉄姫路駅から姫路城まで行脚し街頭托鉢を行った。住職ら12名が参加し、集まった浄財81,531円を地球救援に寄託した。



〈第5部〉12月1日に住職・檀信徒ら17名が参加し新温泉町歌長地区で托鉢を行い、71,901円を地球救援に寄託した。



〈第6部〉11月27日に托鉢を実施した。33名が4班に分かれて濟納寺の檀信徒宅を回った。地球救援に70,000円、丹波市社協に65,000円を寄託。

岡山教区本部

〈第1部〉部内寺院に浄財を募り22,000円を地球救援に寄託した。

〈第2部〉部内の16ヶ寺から155,000円の募金が集まり、地球救援に80,000円、山陽新聞社に75,000円を寄託。

〈第4部〉11月22日に住職・檀信徒ら53名が参加して玉島市街で托鉢を行い、123,279円の浄財が集まった。73,279円を地球救援に、玉島社協に50,000円を寄託。

山陰教区本部

〈第1部〉12月1日に鳥取県の三朝温泉街で托鉢を行い36名が参加し、地球救援に50,000円、三朝町社協に101,891円を寄託。

〈第3部・第4部〉合同で、12月2日に安来市内で戸別托鉢を実施。部内から6名が参加し、



地球救援に30,000円、安来市社協に37,505円を寄託した。

四国教区本部

12月3日に道後商店街で街頭托鉢を行った。参加者24名がパンフレットとティッシュを配りながら募金を呼び掛け、集まった浄財41,626円を地球救援に寄託。

九州東教区本部

〈第1教部〉11月19日、安岐町・武蔵町・国東町各商店街にて街頭托鉢を実施し9名が参加。地球救援に30,000円を寄託した。

〈第2教部〉12月1日、部内各寺院で参拝の檀信徒に喜捨をお願いし、集まった浄財30,000円を地球救援に寄託した。

〈第3教部〉12月1日、豊後高田市内で13名が参加して街頭托鉢を実施し219,758円の浄財が集まった。地球救援に149,758円、豊後高田市交通安協会に70,000円を寄託した。

〈第4教部〉12月1日、大分市内で街頭托鉢を行い10名が参加し、集まった浄財30,151円を地球救援に寄託した。

〈第5教部〉12月1日、各寺院で檀信徒を対象に托鉢を行い、地球救援に20,000円を寄託した。

〈第6教部〉12月1日、各寺院で檀信徒を対象に托鉢を行い、地球救援に10,000円を寄託した。

九州西教区本部

〈久留米部〉12月9日に久留米市商店街で托鉢を行った。急な寒さで商店街の通行人も少なかったが、10名で商店街の店舗を回った。集まった浄財35,210円を地球救援に寄託。

〈柳川部〉12月11日に参加者9名で、長命寺周辺の住宅と商店街を2班に分かれて戸別托鉢を実施。地球救援に30,802円を寄託。

〈熊本部〉12月7日に宇土市商店街で戸別托鉢を実施。雨天の中住職ら9名が参加し、集まった浄財7,600円を地球救援に寄託。

〈肥前東・西部〉12月3日に合同で托鉢を行った。参加者22名が佐賀市中央大通りを行脚し、募金を呼び掛けた。総額48,533円を地球救援に寄託。



〈対馬部〉12月15日に対馬市の巖原商店街で托鉢を実施し、13名が参加した。地球救援に43,983円、対馬市社協に10,000円を寄託。

三岐教区本部



10月2日に安八郡神戸町神部地区の神護寺檀家を中心に托鉢を実施し、住職・寺族・檀信徒ら13名が参加した。2班にわかれて檀中を戸別に訪ね、好意的に協力をいただいた。集まった浄財108,600円を地球救援に寄託。

東海教区本部

12月21日に日泰寺本堂前にて托鉢を実施し、295,462円の浄財が集まった。地球救

援に100,000円を寄託。

また、第五部の吉祥院では、12月1日から7日まで托鉢を実施。期間中27名が参加し知多市八幡地区の約1,800戸を詠歌詠唱しながら行脚した。地球救援に50,000円、知多市福祉基金と共同募金に600,220円を寄託。

北陸教区本部

11月28日に、観音寺がある金沢市豊穂町周辺で托鉢を行い15名が参加した。雨の降る寒い日の托鉢となったが協力的な方が多く、集まった浄財123,700円を地球救援に寄託。

信越教区本部

11月7日、新潟部では新潟県十日町市川治地区を戸別托鉢し6名が参加した。事前に案内チラシを配布したため段取りよく回ることができ、地球救援に72,480円を寄託。

また、信越教区仏教青年会では12月4日善光寺仁王門にて托鉢を実施し、16名が参加した。当日は天気も良く、大勢の参拝者に募金を呼びかけた。門前の托鉢ということで協力的な参拝者が多く、集まった浄財を地球救援に寄託。

神奈川教区本部

J R 鶴見駅の西口・東口駅前では12月1日に托鉢を実施。参加者35名が6班に分かれて通行人に募金を呼び掛けた。また、本年



も事前に各寺院へ募金をお願いしていたため多額の浄財が集まり、地球救援に97,515円、教区救援募金と教区仏教青年会救援募金に各100,000円を寄託した。

東京教区本部

12月12日、浅草寺宝蔵門前において32名が参加し托鉢を行った。参加者は参拝者に募金を呼び掛け、集まった浄財から地球救援に100,000円、あしなが育英会などに182,023円を寄託。

また12月1日には、東京教区仏教青年会による托鉢が行われ15名が参加した。今回で5回目を迎え年々市民の反応も良くなり多くの方から浄財が寄せられた。天台仏教青年連盟に72,199円を寄託。

北総教区本部



12月1日に住職ら16名が参加して、我孫子市布佐の勝藏院の檀信徒宅を中心に托鉢を実施した。当日は留守宅も多かったが参加者は各戸を一軒一軒回った。集まった浄財と寺院住職からの浄財136,700円を地球救援に寄託。

南総教区本部

12月9日、茂原駅前出口付近で住職ら9名参加のもと、2班に分かれて街頭托鉢を行った。集まった浄財122,069円全額を地球救援に寄託。



埼玉教区本部



12月1日、JR川越駅前東口とJR熊谷駅北・南口で29名が参加して托鉢を実施。参加者はそれぞれ街頭で通行人や買い物客に募金を呼び掛けた。中学生、高校生や高齢者まで幅広い世代の方から浄財をいただき、208,187円を地球救援に寄託。

群馬教区本部

〈南前橋部〉12月4日に前橋市圓滿寺周辺で戸別托鉢を行い住職・寺族・檀信徒ら124名が参加し、集まった浄財417,263円を地球救援に寄託。

〈西前橋部〉12月1日に高崎市妙音寺・延命寺で部内住職と檀信徒ら34名が戸別托鉢と街頭募金を行った。地球救援に70,000円、仏教保護会などに87,319円を寄託。

〈北群馬部〉12月4日に61名が参加し、渋川市内で街頭托鉢を行った。集まった浄財の内地球救援に144,184円、上毛新聞社と同市社協にそれぞれ100,000円を寄託。

〈下仁田部〉12月1日に14名が参加して下仁田町南牧村で戸別托鉢を行った。集まった浄財の内地球救援に30,000円、下仁田社協等に188,912円を寄託した。

〈富岡部〉12月4日に28名が参加し托鉢。富岡市甘楽町内で戸別托鉢を行った。地球救援に30,000円、富岡市社協などに224,731円を寄託。

〈北前橋部〉12月2日に北前橋市珊瑚寺周辺で街頭托鉢と戸別托鉢を実施し、部内住職と檀信徒ら13名が参加した。集まった浄財の内地球救援に70,000円、上毛新聞社に62,301円を寄託。

〈東前橋部〉12月1日に前橋市大胡町商店街で部内住職10名が参加して街頭托鉢を行い、集まった浄財120,000円を地球救援に寄託した。

〈伊勢崎部〉12月4日に伊勢崎市市街地で街頭托鉢を行った。21名が参加して街頭と各寺院で協力を呼び掛け、浄財474,179円を地球救援に寄託。

〈桐生部〉12月5日に桐生市末広町周辺で街頭托鉢を実施。住職・檀信徒・寺族ら27名が参加し、寄せられた浄財71,736円を地球救援に寄託した。

〈沼田部〉沼田市周辺で12月1日に26名が参加して托鉢を行い、同市広域消防本部に毛布を贈呈した。

〈世良田部〉12月1日に托鉢を行い、30,000円を地球救援に寄託した。

茨城教区本部

12月1日、第二部では住職ら6名参加のもと、筑西市の下館駅前及び駅前の店舗で募金を呼び掛け、下館駅北口・南口商店街を托鉢行脚した。集まった浄財138,525円を筑西市社協に寄託。

また、5日には第二部千光寺を中心にしたつくば市大曾根地区で住職ら18名が戸別托鉢を実施。汗ばむくらいの陽気の中、参

加者は各戸を回った。総額125,755円を茨城教区ラオス学校建設基金に寄託した。

同じく5日に、茨城県内各地で住職ら25名が托鉢と募金活動を実施した。集まった浄財296,045円を茨城教区ラオス学校建設基金に寄託。

栃木教区本部

12月21日に宇都宮市文化会館において栃木教区寺庭婦人会・仏教青年会合同公演が開催され、公演終了後に会場で募金活動を実施した。地球救援に集まった浄財89,000円を寄託。

福島教区本部



12月1日、南相馬市原町区駅前通りにて托鉢を行った。住職ら12名が参加し商店街を行脚したが、シャッターが降りて人通りが少なかった。集まった浄財30,000円を地球救援に寄託した。

また、第四部の龍興寺では11月30日、詠讚会・伝道師会の会員と共に会津美里町高田町内で托鉢を実施。「伝教大師讃仰のご和讃」を詠唱しながら町内各戸を巡り「忘己利他・一隅を照らす」精神の実践につとめた。地球救援と同町社協にそれぞれ44,240円を寄託した。

陸奥教区本部

10月3日、興福寺で住職・檀信徒ら82名が参加して托鉢が行われ、20班に分かれて

檀信徒の案内に従い戸別に訪問した。天台宗全国一斉托鉢の趣旨に賛同いただき多くの浄財が寄せられ、212,149円を地球救援に寄託。

山形教区本部



11月28日に、長井市小出地区で住職ら50名が参加して街頭托鉢を実施。当日は雪がちらつく寒い天候の中、2班に分かれて商店街や各戸を回った。地球救援に100,000円、山形新聞愛の事業団に56,560円を寄託した。

NHKに 一斉托鉢浄財を寄託



平成22年12月6日、総本部ではNHK歳末たすけあいと海外たすけあいへ義援金を寄託した。当日は、NHK天津放送局から亀井保樹局長らが来庁し、阿純孝理事長、武覚超副理事長がそれぞれ義援金を手渡した。歳末たすけあいには同月1日に比叡山山麓坂本で行われた「天台宗全国一斉托鉢」

の浄財417,591円が、海外たすけあいには地球救援事務局から100万円が寄託された。

また、寄託式には延暦寺幼稚園から竹林幸祥園長先生と、園児と保護者6名も出席し、11月7日に行われた秋バザーの収益金が園児達から亀井局長に手渡された。亀井局長は「この義援金を必要とされている方にきちんと届くようにしっかりやっていきたい」と述べた。

ニュース News

◎叡山学院生が托鉢の浄財を寄託



平成22年12月13日、叡山学院生2名が来庁し、12月4日に実施した寒行托鉢の浄財を総本部に寄託した。

この托鉢は、同学院の生徒で組織する玉泉会により毎年大津市園城寺（三井寺）界限で行っているもので、実践仏教の一環として20年以上も続けられている。当日は、9時に園城寺を出発した学院生42名が4名ずつの10班に分かれて各戸を行脚。この日は天気も良く、額に汗をにじませながらの托鉢となった。学院生は「今回の托鉢で人とふれあうことができ、とてもいい経験になった」と感想を述べた。今回の托鉢では154,365円の浄財が寄せられ、奄美大島大雨災害支援として全額を地球救援事務局に寄託した。

◎三千院門跡が寒行托鉢の浄財を寄託

平成22年12月27日、三千院門跡の大島亮幸執事長が天台宗務庁に来庁し、地球救援



募金として20万円を福恵善高総本部長に手渡した。この浄財は、毎年12月23日に天台宗全国一斉托鉢の一環として同門跡で実施している寒行托鉢で寄せられた浄財。

托鉢当日は雨の降る中、午前8時半から小堀光詮門主を先頭に法螺貝を合図として三千院山門を出発。僧侶や職員など約60名が4班に分かれて地元大原の約700戸をまわり、玄関先で般若心経を唱えていった。留守のためにわざわざ隣の家に浄財を預ける方や、玄関先に浄財が置かれている家もあり、この托鉢が実施されてから二十数年が経過し、寒行托鉢が大原の地で定着している様子が伺えた。

◎ハイチ大地震被災者の少女が来庁



平成23年1月17日、総本部が支援している特定非営利活動法人AMDA（アマダ・本部＝岡山）から難波妙代表部参事と、アマダが招聘したハイチ人少女ガエル・エズナール氏とアマダ調整員のマック・フレデリック氏の3名が天台宗務庁に来庁し、阿純孝理事長、福恵善高総本部長らと会談した。

今回来日したガエル氏はハイチ大地震で負傷し右足を切断しており、アマダが行っ

た義肢支援プロジェクトにより昨年10月に無償義足の提供を受けた。アマダはハイチ大地震から1年の節目を迎えるにあたりガエル氏を日本に招聘し、義肢支援プロジェクトを支援した団体や事業所の訪問、神戸における阪神淡路大震災被災者との交流などを行った。

ガエル氏は「総本部による支援のおかげで私も義足をつけることができ本当に感謝しています。将来の夢は日本に留学し、外交の分野でハイチと日本の架け橋となることです」と謝辞を述べた。

ハイチでは震災後未だに仮設テントで生活する人々が多く、コレラ感染の広がりにより多くの人々が亡くなっている。アマダはこれからもコレラに対する医療活動を継続していく方向で準備を進めている。

◎比叡山高校宗内生が托鉢の浄財を寄託



平成23年1月27日、比叡山高校宗内生2名と教員1名が天台宗務庁に来庁。昨年12月5日に比叡山麓大津市仰木地区で行った寒行托鉢の浄財84,727円を、地球救援募金として福恵善高総本部長に手渡した。

この托鉢は同高校宗内生の実践仏教の一環として毎年12月に行われているもので、当日は曇り空のもと、黒素絹に草鞋、網代笠姿の装束を整え、4班に分かれて法螺貝を吹きながら家々を行脚した。玄関先では般若心経を唱えて家内安全などを祈願した。

宗内生は「この浄財を生活に苦しんでいる方のために役立てて欲しい」と思いを述べた。